

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

					自己評価		学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	2月22日(月)	評価日	2月24日(水)	
					評価者・組織	学校評価委員会(運営委員会)	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会・学校評議員	
1 確かな学力	思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動の充実	・発表形態の工夫と充実 ・小型ホワイトボードの全クラス配置	・生徒の間で話し合う活動をよく行つていませんか。 ・自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	・肯定的な回答の生徒の割合は87.6% ・肯定的な回答の生徒の割合は76.8%	⇒	全市平均との比較ではおおむね上回っていますが、度数分布比較グラフから、学力の2極化傾向が見られる。ただ、B問題に関して上昇がみられ、グループワーク等の授業改善の成果が徐々にはあると表れてきていると感じている。	・若手教員が急増する中、専門性の向上をはかることが課題になっている。次年度は、教科会を充実させOJTを推進するなかで授業や定期テストの質の向上を図りたいと考えている。	⇒	・授業時間の担保や質の向上を図ってほしい。
	学力向上につながる授業改善	・校内研究授業の実施(年2回) ・教科会の充実 ・少人数授業や教員複数制によるきめ細やかな指導の充実	全国学力学習状況調査の結果	・国語A 全国比+3.2 国語B 全国比+6.0 ・数学A 全国比+2.1 数学B 全国比+2.5	⇒	・本校では課外学習活動や補充学習に計画的に取り組んでいるが、学力の2極化の解消には至っていない。次年度は、発達障害をはじめとする個の特性による学力の偏りのある生徒への対策と、いわゆる倦怠化傾向の生徒をしっかりと見極めて、個に応じた指導の充実を図りたい。	⇒	・嵯峨教育振興会として、学力向上の取組に必要な資金を用意する。	
	家庭学習の充実・習慣化による基礎学力の定着	・GPSP(学習確認プログラム復習シート活用の特別学習会) ・エスノート(ぶりかえり向上手帳)による家庭学習時間の管理	・平日は授業以外に平均何時間勉強していますか。	・「30分以上勉強している」生徒の割合は87.2% ・「家で予習・復習をしている」生徒の割合は47.4% 50.7%	⇒				
2 豊かな心	豊かな体験活動の実践	・ボランティア活動 ・「嵯峨の心」の育成 ・3大行事の実施	・特色ある教育活動に取り組んでいる。(保護者)	・97.7%が肯定的な意見(12月)	⇒	肯定的な回答率の高さは、学年の縦割りや地域での活動を設定することで、多くの人のとかかわりの中で自己有用感を持たすことができた成果であると考えている。	・不登校に陥っている生徒への対応が不十分なことがあった。特に、経験年数の浅い学級担任は単一的な対応しかできない傾向がある。次年度は、OJTの推進を図るとともに自己に関する細かな指示を行い、個に応じた指導を充実していく。	⇒	・嵯峨中パレードは次年度も継続してほしい。 ・パレード等の行事の時間が多すぎるという意見がある。取組の意義等を周知する必要がある。
	豊かな人間関係づくり(学級・学年・地域とのつながり)	・Q-U(楽しい学校生活を送るためにアングレート)の活用 ・地域と連携した取組	・学校に行くのは楽しいと思いますか。 ・地域の行事に参加していますか。 ・開かれられた学校体制をとっていると思いますが。(保護者)	・肯定的な回答の生徒の割合は87.2% ・肯定的な回答の生徒の割合は54.1% ・肯定的な回答の保護者の割合は95.1%(12月)	⇒	・OU調査やクラマネの分析から、規律ある生活習慣やルールを守る態度の定着が見られる。 ・地域と協働した取組を推進している割に、地域の行事の参加率が低い。部活動との兼ね合いがあるが、積極的な参加を図っていく必要がある。	・多くの地域の行事に参加して、生徒に周知されないことが多い。周知を図るとともに部活動の調整等を図り参加を促していく。	⇒	・地域もできることがあれば積極的に協力していく。 ・地域でも嵯峨中学校の取組の意義をアピールしていく。
	規範意識の醸成	・学習規律の徹底 ・道徳教育の推進 ・自己有用感の獲得	・学校のきまりを守っていますか。 ・自分にはよいところがあると思う。	・肯定的な回答の生徒の割合は96.6% ・肯定的な回答の生徒の割合は71.7%	⇒	・肯定的な回答の生徒の割合は96.6% ・肯定的な回答の生徒の割合は71.7%	・基本的な生活習慣の確立に関しては一定の成果をあげている。ただし、スマートホンの適正な活用や薬物乱用防止等の喫緊の課題に対する手立て十分になされていなかった。次年度は、関係機関の各種防災教室等を活用し、計画的な取組をすすめていく。	⇒	・グラウンドゴルフ大会は参加者が多く盛況だった。ただし、これ以上、参加者を増やすことができない。 ・各種防止教室を行って
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	・「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」の取組 ・食教育の推進	・朝食を毎日食べていますか。 ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	・肯定的な回答の生徒の割合は94.3% ・肯定的な回答の生徒の割合は82.0%	⇒	・「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」の取組を確実に行なうことで、遅刻してくれる生徒がほとんどいない等、基本的な生活習慣を着実に定着させることができた。	・基本的な生活習慣の確立に関しては一定の成果をあげている。ただし、スマートホンの適正な活用や薬物乱用防止等の喫緊の課題に対する手立て十分になされていなかった。次年度は、関係機関の各種防災教室等を活用し、計画的な取組をすすめていく。	⇒	・次年度も継続して行っていい。 ・嵯峨学園やPTAも協賛し、保護者啓発を行っていく。
	体力の向上	・愛宕登山競走の取組 ・地域主催のスポーツ大会	・朝練習参加状況 ・参加者数	・参加している生徒の割合は90% ・参加者100名	⇒	・朝練習参加状況 ・参加者数	・グラウンドゴルフ大会は参加者が多く盛況だった。ただし、これ以上、参加者を増やすことができない。 ・各種防止教室を行って	⇒	
	ESDの取組	・研究指定(国立教育政策研究所)	・地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか。	・肯定的な回答の生徒の割合は70.0% ・実践発表の実施(1月26日)	⇒	・ESDに関しては、1月26日に公開授業及び研究報告会を行った。教科調査官からは、今後の教育の進むべき方向を踏まえて取り組めているとの評価をいただいた。	・ESDカレンダーを活用し、各教育活動で育成すべき能力・資質を明確にして取り組んでみたい。	⇒	・京都嵯峨学園の認知度が低いように思う。 ・中学校での取組が小学生や地域の方に知られていないので、広報のシステムをつくればいいのではないか。
4 独自の取組	小中一貫教育の充実	・京都嵯峨学園の設置 ・小中合同の校外活動 ・小中合同研修会、連絡会	・小中の連携した教育活動として取り組めていると思いますか。(保護者)	・肯定的な回答の保護者の割合は65.5%(2月)	⇒	・小中連携に関しては、実践的な取組が充実してきたように感じるが、京都嵯峨学園としての活動と成果が不透明であるとの指摘があった。	・中学校での取組が小学生や地域の方に知られていないので、広報のシステムをつくればいいのではないか。	⇒	・取組などに「京都嵯峨学園杯」等の冠をつける。
	情報発信の充実	・積極的なホームページの更新 ・嵯峨中だよりの発行	・ホームページのアクセス数 ・学校からの情報提供はよく行われていますか。	・平成27年度の総アクセス数49696件(3月現在) ・肯定的な回答の保護者の割合は93.7%(12月)	⇒	・情報発信について、行事の際にはアクセス数が増加するが、日々の閲覧状況は伸び悩んでいる現状がある。			・新たな取組を行うよりも現状行っている取組の認知度をあげるためにホームページ等を活用する。

4 総括・次年度の課題

アンケートの結果や学校運営協議会の意見から、本校の地域と連携した教育活動や京都嵯峨学園と称した小中一貫校としての教育活動については概ね高い評価をいただいている。また、検証委員会の委員の方からも、取組の方向性は、次期指導要領の趣旨と同じ方向を向いているので継続して取り組んでほしいとの評価を受けた。ただ、課題として、教職員の異動等で取組の意義や趣旨の理解がなされていないまま取り組む中で、形骸化していく懸念がある。今後の継続・発展のために、OJTの体制づくりを早急に行なう必要性を感じる。評価に関する各種アンケートについては、経年変化を追えるように項目を変更せずにおこなっているが、検証委員会においても学校の取組の成果をはかる項目が抜けているとの指摘があった。次年度は、学校評価、学園評価等の各種評価を整理し再構築していかないと考えている。